



Lessons in progress

日本洋画史における一九一三年
ゲスト・スピーカー／中ザワヒデキ

● LESSONとは

「20世紀芸術をあらためて学びたい」、「もっと深く学びたい」という想いを持ったものたちが集まり、2006年に LESSON 企画室を結成。その後、丸一日のノン・ストップ・レクチャー・シリーズ「LESSON」を2007年5月より開始。本年のテーマは昨年引き続き「1913年」。さまざまな領域からゲスト・スピーカーを招き、点-in-している出来事の細部に焦点を当て、その風景を詳細に学ぶ長時間のレクチャーです。

現在 第一回「スタイリッシュから見たニューヨークの1913年」ゲスト・スピーカー／佐藤博一（2007年5月19日）、第二回「映画史の中の1913年」ゲスト・スピーカー／青山勝（6月30日）、第三回「彫刻史の中の1913年」ゲスト・スピーカー／金井直（12月8日）、第四回「音楽史の1913年」20世紀音楽の始まり」ゲスト・スピーカー／藤本由紀夫（2008年5月17日）、第五回「コミック1913年」空想から時間への欲望」ゲスト・スピーカー／細馬宏通（10月4日）を終了。詳しくは、LESSON-Lessons in progress ホームページにて。
URL: <http://www.lessons-in-progress.org/>

日本洋画史における
一九一三年
へたうまの源流としての
反官フォーヴ

第一部 概論・歴史法則主義の立場から「日本的フォーヴアンフォルメル」へたうま」を連結する

第二部 詳論・日本洋画史における一九一三年を「フェウザン会解散、二科制建白書、新南画動向」からヘイゲイする

第三部 雑論・「へたと生」「帝国主義と東洋」「梅原とホッパー」「新旧論争と色彩派」「情から知、時代／作家」他

● 1913年について 第一次世界大戦がはじまるその前年

1913年、NYにて欧州の前衛芸術を含む展覧会「アモリー・ショー」は大々的に開催され、アメリカの美術界に大きく影響を与えました。同じ頃、新しい芸術表現であった映画は、産業としての成長と同時に急速に長編化し、複雑な物語を語り始めています。デュシャンの初のレディ・メイド《自転車の車輪》、ボッシュョーニの未来派彫刻《空間における連続性の唯一の運動》、ルイジ・ルッソの《インタルモリ》、ストラビンスキー作曲、ニジンスキー振付けのバレエ「春の祭典」が制作されるのも1913年です。これらの出来事はそれ以前と異なる新しい表現としてこの年に集中的に出現し、それ以降における芸術の船出を大きく予感させています。1mの紐を自由落下させることで、デュシャンは3本の「偶然」による定規を制作（停止原器）と名付け、これを作品としました。この出来事も1913年のことでした。

ゲスト・スピーカー／中ザワヒデキ

2008.12.13 sat 14時-19時

会場：workroom*A

参加人数：12名+企画室メンバー11名

参加費：5000円

*軽食（日本近代洋画ならぬ日本近代洋食）を用意します。
*参加費は、当日、会場窓口にてお支払いください。



「日本洋画史における一九一三年
へたうまの源流としての反官フォーヴ」
ゲスト・スピーカー

中ザワヒデキ Hidetaka Nakazawa

美術家、1963年新潟生まれ、千葉大学医学部卒。1983-89年、アクリル絵画。1990-96年、バカC.G. 1997-2005年、方法論。2006年以降、本格絵画。2000年11月1日、詩人松井茂、音楽家足立智美の立会にて「方法主義宣言」を発表。著書「近代美術史テキスト」「西洋人列伝」「現代美術日本篇」。特許「三次元グラフィックス編集装置」「造形装置および方法」。CD「中ザワヒデキ音楽作品集」。

● 日本洋画史における一九一三年
へたうまの源流としての反官フォーヴ

西欧美術における1913年は主権主義から主知主義への転換点であり、ドイツの表現主義グループ「ブリュッケ」の解散とカンディンスキー、モンドリアン、マレーヴィチらの抽象絵画の創始が象徴的である。では日本の1913年（大正2年）はどうであろうか？ 萬葉五郎が《裸体美人》を発表し、岸田劉生、斎藤與里らが「日本のフォーヴ」の魁となったフェウザン会を結成したのが1912年で、翌1913年は同会解散の年に当たる。急進的洋画家たちによる文展第二部（洋画部門）を二科制とする建白書の提出は1913年だが、当局に拒否され初の在野団体として二科会が設立されたのは1914年である。「1913年は情から知への転換点」という仮説はひびく措置、反官要素を併せ持つ主権主義としての「日本のフォーヴ」の最初の高まりとして1913年前後の時代を捉えるならば、そういえば私にも言いたいことがあった。

私は歴史法則主義の立場であり、循環史観論者である。日本現代美術史としては批判的に語られがちな1950年代後半の「アンフォルメル旋風」と、サブカルチャー文脈なため日本現代美術史には組み入れられていない1980年代前半の「へたうま」は、反アカデミズム的主権主義エネルギーの噴出として同一直線上に並んでいる。さらにそれらの源流として、1910年代の「日本的フォーヴ」を考えるのだ。西洋受容と模倣の問題、東洋アイデンティティと南画と書画とグラフィック、繰り返される「へたと」と「生」の論争は、さまざまなテーマが見えてくる。

もともとこの LESSON という会では、「1913年」という時代をよりリアルに感じさせるため、1913年以降のことには触れない」を原則としていたこと。しかし主権者側のほうから私に、「中ザワさんのときにはこの原則を破ろうと思っています」と申し出てくださった。ご高配に感謝します。2008年現在、美術界はへたうまの対極であるマネリスムの全盛期だが、であるからこゝろ、やがて到来するであろう第四の「反官フォーヴ」へたうま」を占いたい。

ご予約方法

LESSONは、完全予約制となります。
左記のアドレスから、サイト内の予約フォームにてご予約ください。
<http://www.lessons-in-progress.org/>

workroom*A

54110051
大阪市中央区船場後町3-11-2
アトラスビル3階 303号室
Telephone 06-6222-1388
Fax/Smart 06-6222-1381

